

令和元年 8 月 8 日



担当課	政策調整課
担当者	建畠・辻本
電話	(073) 435-1013
内線	2470

東京大学生産技術研究所設立 70 周年

「サマーサイエンスキャンプ in 和歌山・加太」が開催されました！

東京大学生産技術研究所設立 70 周年にあたり、和歌山大学と連携し、「サマーサイエンスキャンプ in 和歌山・加太～カダデカガクスル夏 2019～」が、青少年国際交流センターで、8 月 4 日から 6 日の日程で行われました。

東京大学や和歌山大学の各分野の第一線で活躍する研究者等を講師陣として迎え、ロケット開発にゆかりのある自治体のうち千葉市、秋田県能代市の中高生 8 人と和歌山市の中高生 24 人の合計 32 人が直接指導を受けられるという価値ある体験となりました。

本市としては、今後コンソーシアムに参加していくことに決定し、これからの科学を担う人材育成を積極的に取り組みます。



東京大学
生産技術研究所 岸所長



和歌山大学 伊東学長



東京大学 北澤教授による海洋系フィールドワーク
(水中ロボットの操作など)



和歌山大学 秋山教授による講演の様子
(加太で進めるロケット打ち上げ実験の紹介など)

【参考資料①】 サマーサイエンスキャンプでの講師の方々

宇宙科学

担当講師：川越 至桜 准教授（東京大学生産技術研究所）



<専門分野> 工学リテラシー

<研究内容> 最先端科学技術の研究を活用した、新しい科学技術教育・STEM教育や工学リテラシー向上を目的とした取組を行う。

海洋工学

担当講師：北澤 大輔 教授（東京大学生産技術研究所）



<専門分野> 海洋生態系工学

<研究内容> 海洋の環境や生態系と調和した食料・エネルギー資源利用技術に関する研究を行うほか、水槽実験、数値解析、現地実験を組み合わせた研究を実施している。

担当講師：南 豪 講師（東京大学生産技術研究所）



<専門分野> 超分子材料デザイン

<研究内容> 生命が行っている分子認識現象にヒントを得た超分子化学を基軸に、材料の分子設計及びその合成、そして電子デバイスやチップ開発に至るまでの包括的・分野横断的研究を行う。

まちづくり

担当講師：川添 善行 准教授（東京大学生産技術研究所）



<専門分野> 建築設計学

<研究内容> ハウステンボスにある「変なホテル」の設計で、ギネス記録に登録される。およそ100年ぶりとなる東京大学新図書館計画を担当し、2017年に「東京大学総合図書館別館」を完成させた。

担当講師：青木 佳子 特任助教（東京大学生産技術研究所）



<研究内容> 2014年より、川添研究室にて和歌山市加太のまちなみに関するフィールド調査を展開。2018年春より、地域ラボのディレクターとして加太に研究拠点を移す。

地域活性化



担当講師：足立 基浩 教授（和歌山大学 副学長）

<研究内容> 中心市街地活性化に関する研究や、日英の都市再生に関する比較研究、地理情報システム（GIS）に関する研究などを行う。



担当講師：稲野 雅則 会長（加太観光協会）

これまで、加太地域の活性化に向けた様々な取組を行い、地域の代表の1人として尽力されている。

宇宙・ロケット



担当講師：秋山 演亮 教授（和歌山大学）

<専門分野> 科学教育、固体地球惑星物理学、国際関係論

<研究内容> 惑星科学研究者として「はやぶさ」「かぐや」等の探査計画に従事。

2005年から全国の生徒・学生が参加する「能代宇宙イベント」等の共同実験を各地にて企画・開催。

【参考資料②】

「科学自然都市協創連合～宇宙開発発祥の地から繋ぐコンソーシアム～」について

同研究所に所属していた糸川英夫教授の日本のロケット開発黎明期におけるロケット開発にちなみ、日本のロケット研究開発の足跡を戦後復興を象徴する貴重な歴史遺産と捉えて、「ロケット研究発祥の地」と称するに相応しい歴史的な経緯を備えた各地が連携することにより、宇宙開発発祥の地として互いに敬意を払いながら、それぞれの地域振興に繋がる横断的な取り組みを協働して推進することを目的とする。また、ロケット開発の足跡に想いを重ねて、科学技術を活用して夢と活力のある社会の形成を目指すと共に、地域連携の取り組みを通して知恵と経験を共有し、自然の脅威に対峙しつつも自然と触れ合い人間らしく生き生きとした生活を営めるまちづくりに連携して取り組むことにコンソーシアムの今日的な意義を見出し、その趣旨に賛同する地域や組織との連携の輪を拡げて、魅力的な社会とまちづくりに取り組むことを目指す。